

## 滋賀県議会政策・土木交通常任委員会における主な意見

開催日：平成24年7月4日（水）

## ■新生美術館の基本的な考え方

- アール・ブリュットが「滋賀の美」を考えると本当に適当なのか。
- 県内にはまだまだアール・ブリュットの潜在力がある。ぜひ進めてほしい。
- アール・ブリュットは、そもそも個人の感性のものであって、もっと拓げていくべきである。今から、形を固定するのではなく、あらゆる人に可能性があるというような拓げ方をすべき。美術館に展示しているものもいいとは限らない。
- アール・ブリュットはいいものとは思いますが、その反面、県内で創作されているアマチュア作家が日の目をみていないという側面もある。
- アール・ブリュットが正規の美術教育を受けていない人の作品ということであれば、滋賀県の取組は、あまりにも福祉に偏っていないか。福祉に重点を置くならそういうべき。

## ■新生美術館の事業展開の方向性

- アール・ブリュットはまだ企画展レベルではないか。いきなり新生美術館で常設にするには無理があるのではないか。
- 文化芸術では参加したいと思っている県民もいるがきっかけや場がない。「美の滋賀」という方向性を出して行うのはわかるが、あまりにも軸足が踏み込みすぎていて、それありきで推し進めているように思える。県民が発表できる場所などを考えるべきではないか。

## ■施設・設備の整備

- アール・ブリュットと近代美術と仏教美術の3つを合わせることで、何十億という規模になるようなら、3つを合わせる必要があるかどうか。空いている公共施設の活用なども考える必要がある。
- アール・ブリュットで展示できるものは、現状ではそんなにはないのではないか。いきなり新生美術館で常設にするには無理があるのでは。本当に整備する必要があるのかももう少し検討が必要ではないか。